

こんにちは、嘱託員の鈴木です。今日は「土用の丑の日」ですね。

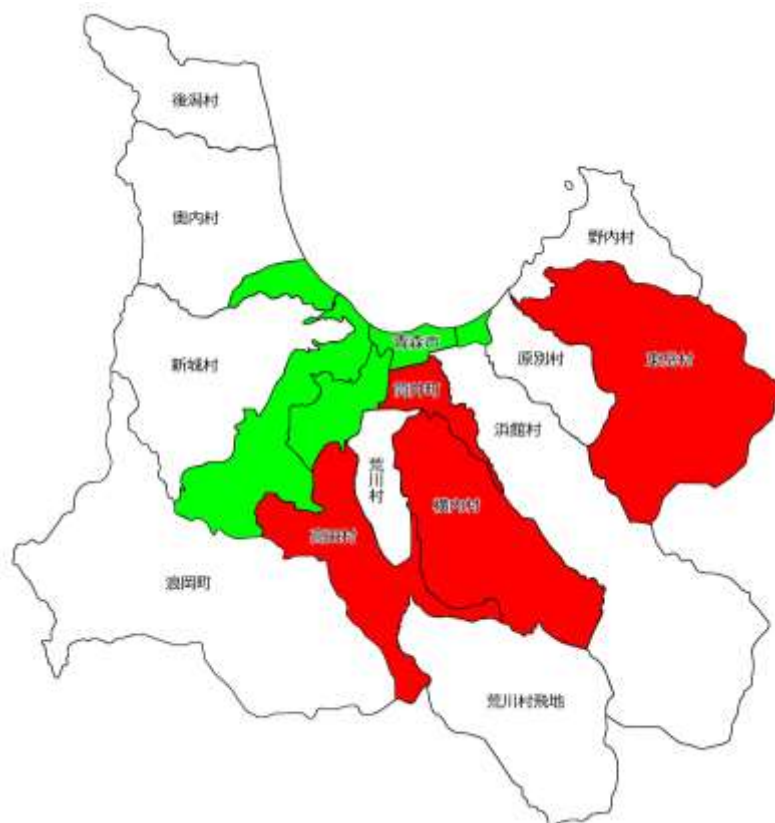
最近、館内展示の準備として、青森市域の変遷がひと目でわかるような資料づくりを進めています。そこで、ひとつ気がついたことがありました。

総務省の資料によれば、明治21年(1888)の日本の町村数は71,314あったそうです。それが、明治22年の市制町村制施行に伴う「明治の大合併」、昭和28年(1953)の町村合併促進法等により町村規模の合理化が図られた「昭和の大合併」、そして「平成の合併」と3度の大合併などにより、平成26年(2014)4月には1,718となりました。青森市も、明治期から今日に至るまで周辺町村の一部または全部を編入・合併することで、その市域が拡大しています。

こうした市町村の合併に伴い、いわゆる「飛地」が生じることがあります。青森県では、「昭和の大合併」で弘前市となった旧東目屋村などがその例です。その後、「平成の合併」の際に東目屋をはじめ各地の飛地が解消されましたが、逆に青森県の中泊町、五所川原市、外ヶ浜町のように新たな飛地が生じたところもありました。

実は青森市にも「昭和の大合併」の際、ほんの短い間だけ「飛地」があったのです。それは旧東岳村(現在の宮田・馬屋尻・矢田・三本木・滝沢の地域)です。

昭和30年1月1日、東岳村、高田村、横内村、筒井町(昭和27年に町制施行)が青森市と合併しました。この段階で、まだ原別村と浜館村は青森市と合併していませんでしたので、西は現在の佃付近から駒込にかけて、東は原別・泉野から諏訪沢・築木館にかけての地域はまだ青森市ではなく、旧東岳村は青森市の飛地になったのです。



昭和30年1月1日に青森市と合併した地域(赤色で示した部分)

